



# War Cry

## 2月号

福音版  
2025  
February  
No.2883

二〇二五年 二月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

# GOOD NEWS と きの こ え

## いい塩梅ですか？

西村 和江



もし二月に「お花見の季節になりましたね！」と言うと、「まだ桜は咲いていませんよ」と言われそうですが、お花見の由来が奈良時代までさかのぼって、かつては梅の花見を楽しんでいたという説をご存知でしょうか？ 空気の澄んだこの季節に、皆さんも甘酸っぱく香る梅の花見に出かけてはいかがでしょう。

わたしの父方の故郷は、和歌山県のみなべ町という所で、日本一の梅の里として知られています。梅干しは欠かせない健康食として多くの人々に愛されていますが、青梅には毒があるという話は最近になって知りました。未熟な果実や種の中心部分に天然のシアン化合物が含まれているため、生で食べると体調を崩すという事です。ところが完熟の梅を塩につけて、梅干しとして加工されると、免疫力向上、抗アレルギー、消化促進などの他にも様々な効果が期待される健康食品になるのですから、不思議です。「梅はその日の難のがれ」と言われるほど、古くから薬の代わりに食されてきたわけですが、そこには先人たちの知恵と歴史が刻まれていることを実感しま

す。物事の調子や具合を表したり、ほどよく物事に対応するという意味で使う「塩梅」という言葉があります。わたしたちの生活にもバランスや加減というものもとても重要であると思っいますが、聖書の中にもこのような教えがあります。

「塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によつて塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごさなさい。」(マルコによる福音書9章50節)

塩は防腐と味付けの役割を果たしますが、「自分自身の内に塩を持つ」ということは、どのような時にも腐らず、しっかりと品位を保つという教えと言えるでしょう。また塩を持つことで、他者を腐らせず、周りの人にも良い感化とも言える風味を与え、それによって互いが平和に過ごすことを実現するということです。

いると言うのです。ある時この人の不満が爆発し、ついに相手に対して暴言を吐いてしまったそうです。もし本当に理不尽なことがまかり通っていたのであれば、これは正さなければならぬことです。けれども、その方法として相手を傷つける言葉を放ってしまったとしたら、それは正しいことではありません。

聖書では、「いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう。」(コロサイの信徒への手紙4章6節)

と教えています。私たちの口から出る言葉がしょっぱ過ぎたら、とても対話にはなりません。何事も「いい塩梅」であることが人との間を平和に保つことにつながるのだと思っっています。

気分が晴れない時もあることでしよう。高ぶる気持ちを抑えることが難しい瞬間もあると思います。そのような時にこそ、神様が聖書の言葉を通してあなたを守ってくださり、心も体も平和であることができますように。

(救世軍士官(伝道者))



## 御言葉は わが足のともしび

筒井 恵子 さん  
(救世軍広島小隊所属)

救世軍の小隊(教会にあたる)には年齢も人生経験も様々な人が集い、神様を礼拝し、互いの交流を楽しんでいます。広島市南区、比治山の傍にある救世軍広島小隊に属する筒井さんに、小隊長官(牧師)がインタビューして信仰の歩みをお聞きしました。

— 広島小隊で毎週日曜日に会食の準備をしてくださりありがとうございます。毎回、手の込んだおかずです。

筒井 毎週日曜日、聖別会に出席しているメンバーは遠い所から来ているので、自宅に帰ってから食事では時間が遅くなります。外食すればお金もかかりますし、外食するよりは、せっかく小隊まで来られたのですから、礼拝だけで帰るより一緒に食事したほうがよいと思うのです。一人暮らしの人が多いから大切な交流の時間にもなります。

普段一人では食べないようなものを添えるようにしています。原価が安く新鮮な地物の野菜で味を工夫し、動物性より植物性たんぱく質など、栄養のバランスの良いものに使っています。私は救世軍の信徒の家庭に育ちましたが、いつもお客様が来ていました。家族はそれぞれお客様を迎え、家にあるものでもてなしていたので、自然と私もそういうものだと

— 筒井さんは北九州・八幡のご出身ですね。

筒井 はい、祖父の吉村勘蔵は八幡小隊の下士官(役員)で、のち名誉会計となりました。熱心な信仰者でした。東京の救世軍本宮(本部)から特別伝道集会の説教者や、救世軍士官学校(神学校候補生の訓練キャンプ)で来られた方々を、我が家にお泊めするのが常でした。集会が終わってから家に招いていましたので、救霊会(伝道集会)が終わってから、夜中の十一時過ぎになることもあったと思うのですが、小学生ながらもその雰囲気がとても楽しかったです。

— お母様のご病気では大変でした。

筒井 私は満州の大連で生まれましたが、母の病気のために日本に戻され、祖父と祖母が育ててくれました。二年五カ月後また満州に戻って、昭和二十二年に再び日本に戻り、二十三年に小学校に入学しました。私は不思議と、大変だと思っただことはなく、そういうものだと自然に思っていました。でもよくよく家の手伝いはさせられました。

母から『婦人之友』を手渡されよく読んでいて家計簿もつけていました。そこに洋裁が掲載されていて、寝たまま、私に洋服を縫ってくれました。ですから私は、『婦人之友』愛読者三代目になります。

私が高校三年生の時に、母は少し良くなって、初めて運動会に来てくれました。嬉しかったです。

短大では、寮生活の人も多く、夏休みなど帰省しない友を家に連れてきました。母も家事などできるようになっていたので、気軽に声をかけて家に呼びました。



出身の八幡小隊召天者合同記念会に出席(2024年11月、一列目左端)



広島小隊召天者合同記念会(向かって右端)



フリーズドライ減塩味噌汁の試食



非常用の主食での昼食会

その一人は、今、金沢でクリスチャンホームを築いています。食前の祈りに感動を受けたと言います。卒業後就職しましたが、母がまた手術となったため退職し、面倒を見ながら洋裁の勉強をしました。

筒井 大人になってから信仰の回心というような劇的な転機はないのですが、子どもの頃から、周りの大人の様子を見聞きしながら自

然に育ったと思います。祖母が、八幡小隊信徒の長見貞子さんを通し、『ときのかえ』と出会い、それを祖父にも読むよう勧めていました。

「私が愈々行きづまりを生じ何とか新しく道を開かねば」と思い続けているとき、常に家内がすすめていたキリスト教のことを思いついた。先ず神を信ずる信仰により新しく自分の行く道を開くべきであると決意した」と、『み言葉はわが足のともしび』という吉村名誉会計(祖父)の追想集に書いてありますが、祖父が救世軍に行き劇的な回心をして

てから、家族にも地域にも感化というか変化が起こりました。

日曜日には、だいたい祖父、父と三人で、電車やバスで小隊に通いました。同級生は何のことかわかりませぬから、毎週家族でのお出かけを、うらやましく思っていたようです。私はそこでおこなわれる日曜学校の暗唱聖句を覚えるのが大変で、あまり好きではありませんでした。父は青少年部曹長(責任者)でしたので、日曜学校を手伝い、また、長年、集会の看板も書いていました。

祖父は、間借りをしていた求道者の家族のために、家の隣の小屋を廃材を用いて改造して住まわせるなど、次々と借家を増やしていきました。そこでは町内の女性のための集会をして、礼拝のあとに手芸をしたり、平日には子ども集会をして、私も出席していました。クリスマス集会は我が家でおこない、町内の子どもさんたちを招いていました。子どもの頃から、人が家に集まって集会をし、そして一緒にご飯を食べて、手芸をするなどしていたので、信仰は体の中にしみついて

いったという感じですが。

「幼いころから、信仰生活の土台が培われてきたのですね。」

筒井 はい、苦しかったこともありました。それが苦しみだけで終わることはないとも思っていました。ヘブライ人への手紙二章一節にある御言葉のとおりです。

「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。」

今では、自分には辛抱する養いを受ける期間だったと思います。子どもの頃に覚えた暗唱聖句が、時々、頭の中にスーッと湧いてくることがあり、支えられていると感じます。

長続きしている友達を大事にして、還暦と喜寿には御言葉を添えて誕生カードやハガキを送っています。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」(テサロニケの信徒への手紙一 5章16、18節)の聖句を読んで、キリ

スト教はいいね、と喜んでくれています。自分に感じることは、人も感じていると思っていました。これからも送りたいと思っています。自分だけではなく人をも励ます御言葉に、すべてのことに感謝しています。

筒井 「そつえば、「友の会生活時間しらべ」というのも他の人への関わりですか？」

筒井 これは五年に一度、「生活時間しらべ」で自分の生活を見直すものです。

夫の転勤で広島に来て、一九八二年一月一日に友の会に入会しました。『婦人友』を読んではいましたが、実際に活動に加わりながら、衣食住など具体的に学んできました。「友の会生活時間しらべ」は、一週間をどのように使っているかを十四項目に分けて記録します。一週間のうちに知らずして何かをしているのですけれど、過去を振り返り調べます。自分のために、また他人のことを覚えてどのくらい時間を使っているかを自覚することができます。

二〇二三年五月二十一日から、両股関節の入院手術をし、リハビリは百日でした。それまで痛みに耐えて

いたのがウソのように良くなって、動くことがすぐ楽になりました。これからの与えられた時間は、少しでも神様に用いられるように、そのためにも他の人と繋がりをもっていけるようにと願っています。

筒井 そんなに大層なことをしているわけではなく、自分のできることを無理なく自然に喜んでさせていた

「お子さん方も救世軍にながっておられますね。」筒井 長女は広島で家庭をもち、二人の子どもを育てながら仕事をしています。長男も結婚し岐阜に住んで仕事をしています。二人とも今の時を生かして用いられるようにと祈っています。

「たくさんのお話をありがとうございました。」

創立者 ウィリアム・ブース 大将 リンドン・バッキンガム(万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブ・モーリス(救世軍本営 東京都千代田区)



### 世界をみつめて

#### 〈日本〉社会鍋へのご協力ありがとうございました

昨年末、各地の救世軍で社会鍋募金(街頭募金)がおこなわれました。皆様のご協力に心から感謝いたします。寄せられた尊いご献金は、作業所や施設への支援、災害時の緊急支援活動、街頭生活者支援、子ども食堂の実施、刑務所訪問などのために用いられます。



東京・銀座で

#### ●子ども食堂の実施

東京・錦糸町の救世軍では月に一度、子ども食堂「マナ」を開催しています。昨年12月6日はお弁当と、地域の方々から寄贈された、たくさんの食品が並び、保護者の皆さんと子どもたちは思い思いに品物を選んでいまし

た。お菓子のクリスマスプレゼントもありました。ボランティアの高校生や他のキリスト教会の方々と共に活動することができました。この活動のためにも社会鍋募金が活用されています。



お渡しした品物の一部

#### 〈バングラデシュ〉

救世軍万国本営(国際本部)のエドワード・ヒル中将(参謀総長)夫妻は2024年12月11日～13日、バングラデシュ軍国を訪問しました。夫妻は、首都ダッカのミルプールで、結核とハンセン病の患者のケアをしている地域

支援プロジェクトを視察し、スタッフやボランティアの人々と懇談の時をもちました。また、救世軍のフェアトレードブランド「Others」に携わる女性の自助グループのメンバーと懇談し、「Others」の商品製作がどれほど彼女とその家族に前向きな影響を与えているか、という経験を聞きました。

12月13日の任官任命式では、6人の候補生(神学生)が士官(伝道者)として正式に任官されました。バングラデシュでの救世軍の活動がこれからも力強く進められるよう祈る時となりました。



候補生と挨拶するヒル中将(右)



「Others」の製作者たちと

#### 〈万国本営〉世界メソジスト協議会との連携

2024年12月13日～15日、英国ケンブリッジのウェスレーハウスで、救世軍と世界メソジスト協議会(WMC)は、「現代に奉仕し、使命を果たすために、私の全力を尽くして主の御心をおこなうように」というテーマで対話の時をもちました。2011年のレポート「ミッションにおける協力」を基に対話が進められ、それぞれの最近の動向、及び将来の計画を共有し、前回の対話以来の世界情勢の変化、どのようにお互いから学び、協力して奉仕できるか、などについて検討しました。



## 救世軍とは? What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。初期は「キリスト教伝道会」という名称でしたが、1878年、ブースはじめ指導者たちは、「我々は、キリストの福音を常に宣べ伝える軍隊“The Salvation Army”である」というインスピレーションを受け、日本語で「救世軍」と訳されるこの名称が生まれました。それに伴い、聖書のテモテへの手紙二章3節に「キリスト・イエスの立派な兵士として……」とあるように、社会悪と闘い、人々の魂を救うための迅速な行動に最も適したものとして、軍隊流の組織をとるようになりました。日本では、1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まり、現在に至っています。

救世軍公報 ときのこえ  
 発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日  
 定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円  
 (税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円  
 振替 00180-5-4400  
 発行兼 救世軍  
 印刷人 代表者 スティーブ・モーリス  
 編集人 山谷 真  
 発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17  
 電話 03-3237-0881(代表)  
 Mail [jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org](mailto:jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org)  
 印刷所 ピーアンドエス

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ・私の近くの救世軍を紹介してください。
- ・キリスト教についてもっと知りたいです。
- ・「ときのこえ」の購読を申し込みます。
- ・相談を希望します。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆  
(子ども向け紙面)

左のQRコードから、  
今月の『キッズ・ゴ  
スペル』を閲覧でき  
ます! 聖書のお話  
も動画で見られます。  
ぜひ、ご覧ください!



